



日本学生科学賞事務局

〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1
読売新聞東京本社事業開発部 日本学生科学賞事務局
Tel:03-3216-8606 / Mail:jssa@yomiuri.com

ご不明点はお気軽にお問い合わせください。

第61回

日本学生科学賞

君の発見が、未来をつくる

応募要項

日本学生科学賞は、中学生・高校生を対象にした歴史と伝統のある日本一の科学コンクールです。未来につながる科学から、身近にある疑問を解く研究まで大歓迎。高校生には、アメリカで開催されるISEF(国際学生科学技術フェア)への派遣のチャンスもあります。

入賞特典

- AO入試の受験資格**
- 内閣総理大臣賞 賞金50万円**
賞金総額 約700万円
- ISEFへの代表派遣**
応募作品から選抜

地方審査
2017年
9月~10月

【募集分野】
物理、化学、生物、地学、
広領域、情報・技術

【募集期間】
ホームページ・応募要項の各都道府県の問い合わせ
窓口で確認してください。

主催 読売新聞社 協賛 AsahiKASEI 共催 JST 科学技術振興機構

概要

1957年にスタートした日本学生科学賞は、中学生、高校生を対象にした歴史と伝統のある日本一の科学コンクールです。昨年の第60回大会では、全国の中学・高校から約7万1000点の研究作品が参加しました。

今大会でも、身の回りの小さな疑問や不思議の解明、教科書に書かれている学説に対する疑問の解決などについて、個人、もしくは同じ学校の生徒が共同で行った実験・研究・調査などの作品を募集します。学校の課題研究の発表も歓迎。「科学する心」が伝わる研究作品を強く期待します。

応募資格

中学・高校の生徒。国・公・私立は不問。
高等専門学校、定時制高校の生徒は3年生まで。

募集分野

6分野の研究作品を募集します。
物理、化学、生物、地学、広領域、情報・技術
※広領域は複数の分野にわたる研究など。 ※情報・技術は中央審査のみ。

賞

楯と副賞(研究奨励金)が贈られます。

内閣総理大臣賞

2点 副賞 50万円…中学・高校から各1点

文部科学大臣賞

4点 副賞 30万円…中学の個人・共同研究から各1点、
高校の個人・共同研究から各1点

環境大臣賞

科学技術政策担当大臣賞

いずれも2点…中学・高校から各1点
副賞 30万円

全日本科学教育振興委員会賞

読売新聞社賞

科学技術振興機構賞

日本科学未来館賞

旭化成賞

読売理工学院賞

いずれも2点…中学・高校から各1点
副賞 20万円

※上記の賞は「該当研究無し」という場合もあります。
※文部科学大臣賞以外の各賞は個人・共同研究の区別はありません。
※研究奨励金は受賞者の在籍校に贈られます。

入選

楯が贈られます。

- 1等** 18点…中学・高校から各9点
- 2等** 20点…中学・高校から各10点
- 3等** 22点…中学・高校から各11点

※入選点数は若干の増減があります。

特別賞

楯と副賞(研究奨励金)が贈られます。

学校賞

これまで、本賞で優秀な成績を残している学校や、科学教育に熱心に取り組み、成果を上げている学校などに授与されます。

2校 副賞 20万円…中学・高校各1校

指導教諭賞

これまで、本賞を通じて長年にわたり科学教育に貢献してきた教諭の中から、顕著な功績をおさめられた方に授与されます。

副賞 20万円…若干名

※「該当校、教諭無し」という場合もあります。
※研究奨励金は受賞者の在籍校に贈られます。

高校生が中央最終審査で上位入賞すると、
AO入試の受験資格が得られるほか、
ISEF2018へ代表派遣されるチャンスがあります。

東京大学の推薦入試で合格者続々!!

入賞者には、東京大学や大阪大学(理学部)、慶応義塾大学(総合政策学部、環境情報学部)、早稲田大学(創造理工学部(一部の学科を除く)、先進理工学部)などの大学で、AO入試などの特別受験資格が与えられます。

例えば、東京大学が2017年度入試で実施した推薦入試では、第59回の受賞者が工学部や薬学部に合格しました。

このほか多くの入賞・入選者が、自己推薦で国公立・私立大学に入学しています。詳しくは各大学にお問い合わせください。

日本代表として世界に挑戦

毎年、米国で開催される世界最大の学生科学コンテストISEF(国際学生科学技術フェア)へ代表派遣します。詳しくは7ページをご覧ください。

もっと過去の研究を知りたい場合は…

①公式ホームページでは、全60回分の作品名・学校名などを検索できるほか、要項を含めた詳しい本賞の内容がご覧になれます。

公式ホームページ <http://event.yomiuri.co.jp/jssa/>

②第55回以降の入賞・入選(一部除く)作品は、お茶の水女子大学「理科自由研究データベース」でご覧になれます。

データベース <http://sec-db.cf.ocha.ac.jp/>

●主催：読売新聞社 ●共催：全日本科学教育振興委員会、国立研究開発法人 科学技術振興機構
●後援：内閣府、文部科学省、環境省、特許庁 ●協賛：旭化成

審査の流れ

地方審査

期間 **9月～10月**

募集分野 **物理・化学・生物・地学・広領域**

9月から10月にかけて都道府県ごとに、研究作品を受け付けます。

応募方法 公式ホームページ上の出品票または、この「応募要項」10ページの出品票に必要事項を記入し、作品に添付してご応募ください。

送付先など 作品の送り先、受付期間、応募基準などの詳細は9ページの「第61回(2017年)都道府県 問い合わせ」や、読売新聞の各地域版でご確認ください。

※送り先は、学校が所在する都道府県の地方審査となります。
 ※東京都審査のみ、web登録が必要となります。詳しくは10ページ下部をご覧ください。
 ※地方審査の表彰式は、都道府県ごとに行います。
 ※ISEF出場を目指す研究作品は、7ページもご覧ください。

都道府県ごとに中央予備審査に進む代表作品を、原則として中学の部、高校の部で各3点決めます。ただし北海道、千葉、埼玉、東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡は各6点です。
 審査結果は読売新聞の各地域版で発表します。

事前審査

募集分野 **情報・技術**

「情報・技術」の作品は、地方審査(都道府県大会)を行わず、中央予備審査に進む作品を選定する事前審査を行います。

応募方法

- ①公式ホームページ内の「情報・技術用応募フォーム」に必要事項を入力し、登録を行ってください。
- ②入力後、応募フォームに記入したE-mailアドレスに登録完了メールが送られてきます。登録完了メールに記載されているID、PASSを用いて、マイページへログインしてください。
 ※ID、PASSはなくさないよう保管してください。
- ③ログイン後に、マイページから研究レポートをアップロードしてください。
 ※研究レポートは、6ページの「研究レポート規定」に従って作成してください。
- ④研究レポートをプリントアウトし、出品票と共に下記事務局まで郵送してください。

送付先

〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1
 読売新聞東京本社事業開発部 日本学生科学賞事務局
 TEL 03-3216-8606 FAX 03-3216-8976

受付期間

2017年9月1日(金)～10月25日(水)
 ※審査結果は応募フォームに入力したE-mailアドレスにお知らせします。

注意

研究の際、表計算ソフトを使用したというだけでは、この分野の対象にはなりません。

応募時の注意事項

- 同じ研究作品を、高校の部では高校生科学技術チャレンジ(JSEC)、中学の部では自然科学観察コンクールに重複して応募することはできません。この事実が判明した場合、失格になる可能性があります。
- 2017年4月以降に研究された作品に限ります。(それ以前から継続している研究も可。)
- 出品にあたって、文献、論文、新聞・雑誌の記事、テレビなどの映像番組、インターネット、講演会、インタビューなど第三者の研究・著作物を参考にしている場合は、参考資料として必ず明記してください。不備がある場合、主催者協議の上、審査対象外としたり、審査終了後でも賞を取り消したりすることがあります。
- 特許等の取得を検討している場合、申請は研究内容の発表から半年以内に行ってください。
- 中央予備審査を通過した研究作品ならびに中央最終審査の様子を撮影した画像等は主催者が本賞のPRをはじめとする各種媒体に自由に使用できるものとします。

中央予備審査に向けた登録

地方審査を通過し都道府県代表に選ばれた作品は、中央予備審査前に下記の登録作業・研究レポートの提出を行ってください。

- ①6ページの「研究レポート規定」に従った研究レポートを用意してください(地方審査の形式と異なる場合があります)。
- ②公式ホームページから「中央予備審査登録フォーム」に必要事項を入力の上、研究レポートを郵送してください。
 ※詳細は、都道府県審査終了後、対象者に直接通知します。

中央予備審査

期間 **11月18日(土)・19日(日)**
 審査員が分野ごとに審査を行い、中央最終審査に進む中学・高校各20点と、入選2等、3等の作品を決定します。



中央予備審査の様子

中央最終審査

期間 **12月22日(金)・23日(土・祝)**
 表彰式 **12月24日(日)**

日本科学未来館(東京・江東区)で開催。中央予備審査を通過した研究作品40点について、その研究者と指導教諭が審査会に参加し、審査員が直接研究者に質問する対面審査を行います。

各作品には展示ブースが用意されます。研究者は自分の作品をブースに展示し、プレゼンテーションや質疑応答を行います。その際、指導教諭は審査員の質問に答えたり、研究者に助言を与えたりすることはできません。

審査結果は12月24日(日)の表彰式で発表し、翌日の読売新聞全国版に掲載する予定です。

※展示ブースの詳細は、対象者に通知するとともに公式ホームページでお知らせします。



中央最終審査の様子

国際大会(ISEF)への代表派遣

2018年5月にペンシルベニア州ピッツバーグで開催されるISEF2018へ代表作品を派遣します。
 ※詳細は7ページ

中央審査委員

【審査委員長】長濱嘉孝 自然科学研究機構 基礎生物学研究所 名誉教授(分子生物学)

【審査委員】(順不同)

- 塚田 捷 東北大学 材料科学高等研究所 特任教授(物理学)
- 佐野雅己 東京大学大学院 理学系研究科教授(物理学)
- 下井 守 東京大学 名誉教授(化学)
- 村田 滋 東京大学大学院 総合文化研究科教授(化学)
- 高橋正征 東京大学 名誉教授(生態学)
- 和田正三 東京都立大学 名誉教授(生物学)
- 堀 良通 茨城大学 名誉教授(植物学)
- 町田武生 埼玉大学 名誉教授(動物学)

- 大路樹生 名古屋大学 教授(古生物学)
- 野津憲治 東京大学 名誉教授(地学)
- 酒井 敏 京都大学大学院 人間・環境学研究所 教授(地学)
- 西原明法 東京工業大学 名誉教授(情報・技術)
- 浅田 稔 大阪大学大学院 教授(ロボット学)

※このほか、中学、高校教諭をはじめとした委員約40名も審査を行います。
 ※2017年4月1日現在

受賞作品の紹介

第60回日本学生科学賞の受賞作品の中から、内閣総理大臣賞に輝いた2作品をご紹介します。先輩たちがどのような着眼点でテーマを見つけ、どのような研究で栄冠をつかんだのか、ぜひ参考にしてください。

(いずれも2017年1月24日 読売新聞紙面より)

研究作品のまとめ方

2016年9月17日の読売新聞で、日本学生科学賞の総合委員を務める町田武生・埼玉大学名誉教授が、研究作品をレポートにまとめる際の注意点を述べています。これから応募するにあたり、ぜひ参考にしてください。

日本学生科学賞は地方・中央の審査を経て、成績優秀者に内閣総理大臣賞など11の賞が贈られるほか、入選、特別賞がある。原則、高校の部から最大8作品がI S E Fに進む。20年以上、審査を担う町田武生・埼玉大学名誉教授「写真」に、作品をまとめる際の注意点を聞いた。

審査員からアドバイス



- 「なぜ」背景
 - 「○○について、過去の研究で知られていなかったため、調べた」
 - 「△△の社会問題を解決するために役立つ技術を開発しようと考えた」など
- 「どうやって」手法
 - 「××法をアレンジした独自の実験手法を採用した」など、独自性が大事
- 「こうなった」結果
 - 「この結果から、これまでに知られていなかった新たな知見があった」
 - 「将来的には○○学の発展に大きく役立つと思う」など
- 「こう思う」考察

テーマ選びの動機明確に
明の部分に取り組んでいることを強調する。「過去の知見を振り返っていくのが研究の喜び。それを味わうためにも、先行研究を知ることが大事」と町田さんは、最近の作品には「結果」のまとめ方にも注意が必要だ。生徒たちには「実験回数が少ない②都合の良い結果しか論文に書かない」といった傾向に陥りがちだ。問われるのは「実験を繰り返しても同じ傾向のデータに落ちていく」「再現性」の有無だ。「6〜7回」は再現してほしい。町田さんは訴える。

高校の部 内閣総理大臣賞

「うちわが起す流体の特性を応用した省エネフィンの開発」
京都市立塔南高校1年 早川優希さん (16)



「しなり」着目 省エネフィン



力が高まることも突き詰め、実験結果を踏まえ、しなりを小さくし、市販のファンを改造して、「しなり」部分も3層に重ねたファンを作製した。同じ高校の水泳部員4人、ファンを装着して25泳いで、市販のファンで泳いだ時と比べると、4人は平均約30%短縮できた。4人からは「足が軽い」などの感想も寄せられ、「省エネフィン」を名づけた。

高校 物理 内閣総理大臣賞

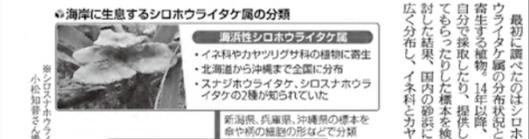
「うちわが起す流体の特性を応用した省エネフィンの開発」

中学の部 内閣総理大臣賞

「砂浜のきのこⅡ」
神戸市立上野中2年 和田匠平さん (14)



キノコ博士 また新種発見か



最初と調べたのはシロホウライタケの植物計測と発生する期間が、海岸に生ずることが多かった。自分でも採取し、栽培して、その生育状況を観察し、その結果、三つの標本は異なる種だと判断した。観察結果を踏まえ、海岸に生ずるキノコを分類した。観察した。すると、海岸を

中学 生物 内閣総理大臣賞

「砂浜のきのこⅡ」

研究レポート規定(抜粋)

- PDF、またはMicrosoft Office Wordで作成してください。 ※一太郎でのレポートは受け付けません。
 - 右記の指定項目に沿って、5000~8000字程度(指定項目7、8、9を除く)にまとめてください。用紙サイズA4、横書きとします。
 - 図表、画像等は全てレポートの最後にまとめて添付してください。図表、画像等を固定できる場合は文中に挿入してもかまいません。
 - レポート以外の参考資料や動画などはCD-Rなどの記録メディアにコピーして事務局までお送りください。記録メディアの返却はいたしません。
 - 標本、装置、模型などの実物提出は受け付けません。
 - アップロード可能なレポートの容量は30MBまでです。
 - レポートのファイル名は「整理番号(出品票の右上)・学校名」としてください。
 - マクロは使用不可です。
 - オートシェイプ等を使用して作図を行った場合は必ず「グループ化」してください。
- ※詳細は、公式ホームページをご確認ください。

- ### 指定項目
- 1 要旨、概要
 - 2 問題提起、研究目的
 - 3 研究方法
 - 4 結果
 - 5 考察
 - 6 結論(課題)
 - 7 参考文献
 - 8 謝辞
 - 9 図表・画像

高校生の皆さん、日本代表として世界に挑戦しよう!

ISEF (アイセフ) への派遣について

ISEF (International Science and Engineering Fair=国際学生科学技術フェア)とは

毎年アメリカで開催される世界最大の学生科学コンテストで、例年、世界75以上の国や地域から約1700人が出場。

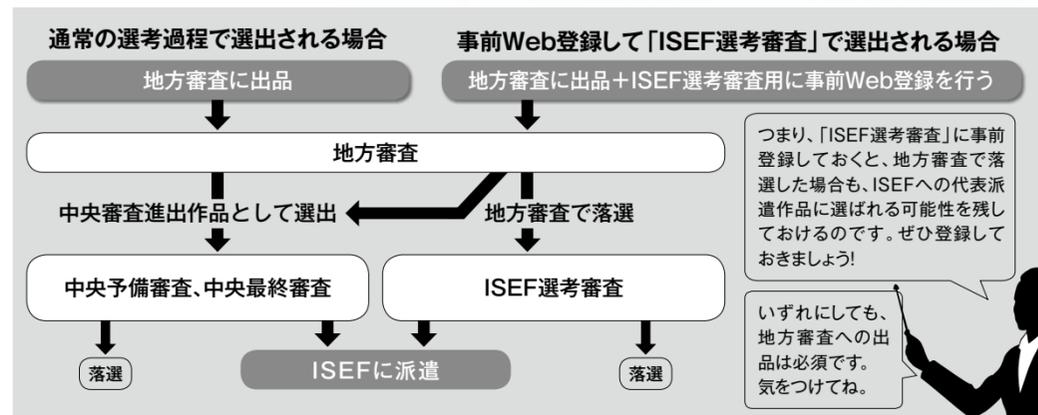
日本学生科学賞の代表は、2013年に日本初の部門最優秀賞を受賞するなど、高い評価を受けています。

※ISEF2018は、ペンシルベニア州ピッツバーグで2018年5月に開催予定。

ISEF2018への派遣作品 選考過程

対象作品 高校の部の個人研究または2~3人の共同研究。
※中学3年生が選考対象になることもあります。 ※代表生徒1名の派遣費は主催者が負担します。

選考過程 2パターンあります。



事前登録のご案内

登録期間 2017年9月1日(金)~10月25日(水) ※地方審査の受付期間とは異なりますのでご注意ください。

登録方法 STEP1 各道府県の地方審査事務局に、出品票と研究作品を送付してください。
(受付期間は各地方審査事務局にお問い合わせください。)

STEP2 上記登録期間内に、公式ホームページから「ISEF選考審査web登録」を行い、日本学生科学賞事務局にも同じ出品票と研究作品を送付してください。

※東京都の場合は、公式ホームページから「東京都審査応募フォーム」に入力する際、「ISEF選考」を選択し、9月1日(金)~10月4日(水)に日本学生科学賞事務局に出品票と研究作品を送付してください。

ISEFへの派遣 での注意点

国際学生科学技術フェア(ISEF)は、実験方法などに関する規則とガイドラインを独自に設けています。ISEFに派遣する研究作品は、ISEFの規則とガイドラインを遵守する必要があります。特に「ヒトを対象とした研究」「脊椎動物を題材とした研究」「潜在的危険性のある生物および生物由来の物質(微生物、組み替えDNA、細胞組織など)を取り扱う研究」に該当する場合は、注意する必要があります。また、潜在的危険性の高い生物因子や麻薬などの規制物質を取り扱う研究には資格を持った科学者の監督・指導が必要です。ヒトや脊椎動物を取り扱う場合にも有資格者の監督・指導が必要です。

ISEFの国際規則とガイドライン(英語版)は、ISEFのホームページでご覧いただけます。
▶ <https://student.societyforscience.org/intel-isef>

ISEF2016 奮闘記

日本学生科学賞では、代表作品をISEFに派遣するにあたり、研究のブラッシュアップや英語力の強化など手厚いバックアップ態勢を敷いています。大舞台に挑むまでの軌跡をご紹介します。

ISEF2016派遣者決定・説明会

派遣者の決定後、指導教諭を含めて読売新聞東京本社で、ISEFの大会概要や渡米までのスケジュール、提出書類の記入方法などの説明会を行いました。代表作品には専門分野に詳しい総合委員がついて、論文のまとめ方などをアドバイスしてもらっています。

1月

ファイナリスト研修 in つくば

インテル株式会社つくばオフィスなどで、3泊4日の泊り込み研修。日本代表にとって、最大のハードルは英語でのコミュニケーションです。過去の出場経験者や英語のネイティブスピーカーと一緒に、英語での発表や質疑応答の練習をしました。

3月

プレゼン研修

出発を2週間後に控え、読売新聞東京本社で最後の研修が行われました。本番さながらの形式で、研究内容を紹介するポスターを前に、英語で発表。質疑応答など本番直前の専門的なアドバイスを受けました。

4月

いよいよ本番!

現地入り後も、英語によるプレゼンテーションをギリギリまで練習、現地在住の日本人通訳に、英語の発音や表現法などを指導してもらいました。会場内のロビーで本番直前まで練習を重ね、自信の源になりました。

5月



ISEF審査会場

先輩の声

東北大学 飛翔型「科学者の卵 養成講座」特任助教 下山せいらさん
(ISEF2006 動物部門1等、中国科学技術協会賞受賞)



私は高校のとき、プラナリアがどうやって餌を見つけて食べるのか疑問に思い、その摂食行動について研究を始めました。この研究を日本学生科学賞に応募したところ、文部科学大臣賞に選ばれ、ISEFへ日本代表としての出場が決まりました。

英語が苦手でしたが、ISEFに出場経験のある先輩方や大学の先生に研究を見ていただき、発表の準備を進めました。現地での審査では、プラナリアの摂食行動について、私が最も詳しく知っていて、世界一のプラナリア好きであることを、プラナリアのぬいぐるみを持って審査員に熱く語りました。

プラナリアをもっと知りたいと思い、大学・大学院と研究を続けた後、今は科学好きの高校生の研究や大学での学習をサポートする仕事をしています。みなさんも好きなことを見つけられ、きっと頑張れるし、その道を極めてぜひ世界で一番を目指してほしいです。

第61回(2017年) 都道府県 問い合わせ

	問い合わせ先	郵便番号	住所	電話番号
北海道	読売新聞 北海道支社 総務部 事業担当	060-8656	札幌市中央区北4条西4-1-8	011-242-5630
青森	読売新聞 青森支局	030-0801	青森市新町2-2-4 6階	017-773-2121
岩手	読売新聞 盛岡支局	020-0015	盛岡市本町通2-3-2	019-653-1441
宮城	読売新聞 東北総局	980-0021	仙台市青葉区中央2-3-6	022-222-4121
秋田	読売新聞 秋田支局	010-0951	秋田市山王6-2-1	018-824-2211
山形	読売新聞 山形支局	990-9543	山形市松山3-14-69 エフエム山形2階	023-624-2121
福島	読売新聞 福島支局	960-8063	福島市柳町4-29	024-523-1204
茨城	茨城県教育庁 学校教育部 義務教育課	310-8588	水戸市笠原町978-6	029-301-5226
栃木	栃木県総合教育センター	320-0002	宇都宮市瓦谷町1070	028-665-7204
群馬	読売新聞 前橋支局	371-0026	前橋市大手町3-7-1	027-232-4311
埼玉	埼玉大学教育学部附属小学校 肥田幸則教諭	330-0061	さいたま市浦和区常盤6-9-44	048-833-6291
千葉	千葉県総合教育センター	261-0014	千葉市美浜区若葉2-13	043-276-1184
東京	読売新聞東京本社 事業開発部 日本学生科学賞事務局	100-8055	千代田区大手町1-7-1	03-3216-8606
神奈川	横浜市立山内中学校 青木慎教諭	225-0002	横浜市青葉区美しが丘5-4	045-594-5107
新潟	読売新聞 新潟支局	951-8551	新潟市中央区白山浦1-336	025-233-5111
富山	富山県教育会 事務局	930-0018	富山市千歳町1-5-1	076-432-3624
石川	石川県教員総合研修センター 基本研修課	921-8153	金沢市高尾町ウ31-1	076-298-3515
福井	読売新聞 福井支局	910-0005	福井市大手3-14-9	0776-22-5220
山梨	読売新聞 甲府支局	400-0034	甲府市宝1-9-1	055-235-2222
長野	長野県教育委員会 教学指導課	380-8570	長野市南長野幅下692-2	026-235-7434
岐阜	岐阜県教育委員会 学校支援課	500-8570	岐阜市藪田南2-1-1	058-272-1111(内線3698)
静岡	静岡県教育委員会 義務教育課	420-8601	静岡市葵区追手町9-6	054-221-3143
愛知	読売新聞中部支社 総務部事業課	460-8470	名古屋市中区栄1-2-1(※7月18日から)	052-211-0083
三重	読売新聞 津支局	514-0009	津市羽所町388 津三交ビルディング3階	059-225-4321
滋賀	読売新聞 大津支局	520-0806	大津市打出浜13-1	077-522-6691
京都	読売新聞 京都総局	604-8162	京都市中京区烏丸通六角下 七観音町630	075-231-1111
大阪	大阪府教育庁 市町村教育室 小中学校課	540-8571	大阪市中央区大手前2丁目	06-6941-0351(内線5487)
兵庫	兵庫県教育委員会 高校教育課	650-8567	神戸市中央区下山手通5-10-1	078-341-7711
奈良	奈良県教育委員会 事務局 学校教育課 義務教育係	630-8502	奈良市登大路町30	0742-27-9854
和歌山	読売新聞 和歌山支局	640-8241	和歌山市雑賀屋町東ノ丁16	073-422-1144
鳥取	読売新聞 鳥取支局	680-0846	鳥取市扇町7 鳥取フコク生命駅前ビル3F	0857-22-2196
島根	読売新聞 松江支局	690-0886	松江市母衣町95-1	0852-23-1411
岡山	読売新聞 岡山支局	700-0822	岡山市北区表町1-6-20 岡山フコク生命表町ビル2F	086-224-3377
広島	広島県立教育センター 教科教育部	739-0144	東広島市八本松南1-2-1	082-428-1149
山口	山口県教育庁 高校教育課 普通教育班	753-8501	山口市滝町1-1	083-933-4627
徳島	読売新聞 徳島支局	770-0831	徳島市寺島本町西1-7-1 日通朝日徳島ビル2階	088-622-3155
香川	読売新聞 高松総局	760-0017	高松市番町1-10-21	087-861-4350
愛媛	読売新聞 松山支局	790-0001	松山市一番町4-1-6	089-933-4300
高知	読売新聞 高知支局	780-0870	高知市本町1-1-3 朝日生命高知本町ビル6F	088-825-2220
福岡	読売新聞西部本社 事業部	810-8581	福岡市中央区赤坂1-16-5	092-715-6071
佐賀	読売新聞 佐賀支局	840-0801	佐賀市駅前中央1-9-38	0952-24-7141
長崎	読売新聞 長崎支局	850-0862	長崎市出島町11-1	095-823-0121
熊本	読売新聞 熊本支局	862-0976	熊本市中央区九品寺2-1-24	096-363-1177
大分	読売新聞 大分支局	870-0046	大分市荷揚町3-1	097-534-1621
宮崎	読売新聞 宮崎支局	880-0806	宮崎市広島1-18-7	0985-25-4254
鹿児島	読売新聞 鹿児島支局	892-0844	鹿児島市山之口町1-10	099-222-7370
沖縄	(高校)県立球陽高校 高山一夫教諭	904-0035	沖縄市南桃原1-10-1	098-933-9301
沖縄	(中学)宜野座中学校 宮平光二教諭	904-1303	宜野座村惣慶1505番地	098-968-8510

第61回 日本学生科学賞 出品票

(東京都審査を除く※)

この出品票に必要な事項を記入し、作品に必ず添付してください。

科目は中央審査で必要となりますので、必ず一分野選んでください。

中学 / 高校	物理 / 化学 / 生物 / 地学 / 広領域	情報・技術	個人研究 ・ 共同研究
ふりがな			
学校名 (省略不可)			
所在地 〒			☎ FAX
ふりがな 指導教諭氏名		印	e-mail 緊急連絡先 電話番号
ふりがな 研究作品名		(サブタイトル) ※必ずしも必要ではありません。	出品物 この研究を構成しているものの数量を記入してください。
※作品名は15字程度、長い場合はサブタイトルにしてください。			
個人研究	ふりがな 研究者氏名	学年(年) 性別(男・女)	ノート・レポート 冊
共同研究	ふりがな グループ名	※共同研究は必ずグループ名をつけてください。 ※学校名は省略してください。	
	研究人数 人	ふりがな 代表者氏名	CD・DVD など 枚 その他
※リストや新聞表記で使います。 ※代表者以外の氏名は別途添付してください。			

研究作品の概要をそれぞれ120文字程度で紹介してください。

動機や背景 もしくは目的 (なぜこの研究を行ったのか)	
研究方法 (なぜその方法を採用したか)	
研究結果 (どのような結果になったか)	
まとめ・結論 (結果から言えること・わかったこと)	
展望 (結果から、この研究はどのように使えるか。あるいはどのような場面に応用できそうか)	

※東京都審査に応募の場合

- ①公式ホームページ上で「東京都審査応募フォーム」から必要事項を入力してください。
 - ②登録完了後に表示される出品票を印刷して作品に添付して郵送ください。
- ※学校単位で多数応募される場合・パソコン環境によりフォームに登録できない場合などは、事務局にご連絡いただいたうえで、このページの出品票を使用してください。